

長幅	一一八八〇 <small>呎</small>	一八七〇〇 <small>呎</small>
深吃水(滿載)	四八、〇	三四、六
砂船容量	一一三、〇	一四、九
同上滿載ニ要スル時間	一一八、三	一一一、一
毎時間ノ吸揚土砂量	一一〇四〇 <small>立方</small> 全上	七八五 <small>立方</small> 全上
速度(のと)	五五八 <small>英里</small>	九四〇 <small>英里</small>
凌渫深	一〇、	九、七五
合衆國ニ於ケル價	三五〇〇〇 <small>英</small>	三五〇 <small>英</small>
○ 濑筋ノ新式 いるみねーしょん	大ナル船舶ニテ夜間瀬筋ヲ航行スルコトハ今日甚ダ容 易ナラザル問題ナリ、普通是等船舶ノ目標トナルヘキ燈光ハ其數少ナク且ツ余リニ離レ過ギ 居レルガ故ニ例ヘバ霧ノカヽリテ暗キトキナドハ水先案内モ望ナク且ツ誠ニ危險ナリ、然ル ニ茲ニ新約克港ニテハ港内ヲ明ルクシテ夜間ノ航海ヲ爲シ得ラル、ヤウナスコトノ商業上 利益アルヲ認メタルニ由リ、頃者其燈臺局ハあんぶろーす瀬(Ambrose Channel)ニ沿ヒテ瓦斯ら んぶヲ取付ケアル浮子ノ列ヲ設置シタリ、是レ恰モ港内道路ニ於ケル街燈ニ等シキモノナリ、 其らんぶハ一ヶ月間晝夜點火シテ差支ナキ丈ケニ充分ナル瓦斯ヲ用意シアリ、偶々船舶ノ之	一一〇〇〇〇〇 <small>英</small>

レニ衝突シ又ハ波浪ノ力ニヨリテ破壊セラル、如キコトナキ限り平素ハ毫モ注意ヲ要セズ
近頃ハ他ニ又新式いるみねーしよんノ計畫出デタリ、該計畫ニ據レバらんぶハ水上ニ置カ
ル、代リニ浮ノ床ニ沿ヒテ置カレ、其光ヲ水ノ表面ニ向ハシムル様裝置サレ、浮其者ノ形ガ水
面上いるみねーしよんニ由リテ明カニナルベキ仕掛けナリ、斯クらんぶヲ水面以下ニ置クトキ
ハ小船ノ航行ニ障害ナシ、自然小船ハ必ズシモ深キ浮筋ヲ犯スニ及バズ、又都合ニヨレバ大船
舶ノ其上ヲ航行スルモ差支ナキヤウ充分低ク置クコトヲモ得ベシ

今其構造ノ概要ヲ述ブレバ、一條ノ纜ガ浮筋ニ沿ヒテ敷設サル、但シ此纜ハ可成浮筋ノ左右
兩側ニ置クヲ可トス、而シテ纜ニ沿ヒテハ處々燈光ヲ取付ケアリ、是等ノ燈ハ管狀ヲナシタル
浮子ノ上端ニれんすヲ嵌メ、白熱電燈ヲ其内ニ裝置セリ、斯クテ其電燈ノ光ハれんすノ作用ニ
ヨリテ上リ浮筋ノ形ヲ顯然ト水面上ニ現ハスナリ、らんぶハ陸上ノ發電機又ハ蓄電池ヨリ電
流ヲ供給サレ、陸上ニテ燈光ノ管理ヲ爲セリ、燈光ハ普通ノ習慣ニ從ツテ水路ノ兩側各異ナリ
タル色ヲ以テ區別シ、又勿論普通ノ浮子ヨリ間隔ヲ狭メテ繁ク置カレ得ベシ、然レドモ此燈光
ノ發明者タルれおんぢおん氏(Leon Dion)ニヨリテ行ハレタル實驗ニ據レバ、一哩ニ付三箇或ハ
二箇位ニテモ水路直線ナル場合ニハ充分ナリト云ヘリ

纜ハ海底ニ錨ヲ下ロシ確カニ繫クモ可ナリ、然レドモらんぶト纜トノ連結可撓的ナル爲メ
水ノ動クニ連レ多少ノ動搖ハ免レザルベシ、らんぶノ浮泛力ハ單ニ之レヲ真直ニ保ツニ充分
ニシテ主纜ヲ引張ル如キコトナケレバ宜シ

らんぶヲ修繕シ又ハ焼切レタル電球ヲ取代ヘントスルトキハ纜ハ船鉤(Grapple)ニヨリテ引

工學會誌第三百八卷

(月六年一十四治明)

揚ダ得然レドモ此種ノ作業ヲ簡便ナラシムル爲メらんぶハ箇々別々ニ海底ニ繫留セシメ、其主纜ヨリ電流ヲ通ゼシムベキ連絡線ヲ充分長クシテ、らんぶヲ上ニ揚タルモ主纜ヲ引張ルコトナキ丈ケニ爲シ置カバ、修繕ノ際毫モ主纜ヲ妨害スルコトナクシテ都合宜シカルベシ。

水中燈光ノ水上燈光ニ優ル點ハ、彼ノ潛水艇ガ港内ニ運動スル場合ノ如キ目標トシテ効果殊ニ顯著タルベシ、而シテ一朝戰時ニ際シテハ、燈光ノ明滅自在ナレバ、一ハ以テ自己船艇ノ動作ヲ助ケ、一ハ以テ敵ニ乗セラル、ヲ防グノ効アルベシ(Scientific American, March 21, 1908) ○○

劣レルヤ明カナリ

一人一日ニ爲シ得ル仕事

一 道路面ニ枕木ヲ八分ノ一哩敷ク

一 軟カキ枕木ノ線路ニ十分ノ一哩すばいくヲ打チ込ム
一 硬キ枕木ナレバ十四分ノ一哩すばいくヲ打チ込ム

一 六分ノ一哩すぶらいす(Splice)ヲスヘテソレヘばるビヲハメル
一 しよべるデ餘リ高カラザル艸ヲ八分一哩ノ間丈ケ刈リ取ル

一 砂礫(gravel)ヲ十車取り卸ス

一 坪ナレバ八車取り卸ス

一 車上ニ礫ヲ十八乃至二十四立方や一ど積ミ込ム

K. O.